

《講演抄録》小児口腔機能発達不全症の診断と対応法について

東北大学大学院歯学研究科小児発達歯科学分野 教授 齋藤 幹

近年、子供の口が日頃から開いている”お口ポカン”と言われている口唇閉鎖不全が増えていきます。また、厚生労働省では小児期の適切な口腔機能の獲得が、高齢期での口腔機能へと繋がっているとっております。そのため、小児期における口腔機能の発達が成人期の摂食嚥下に繋がり、更に高齢になると、口腔の機能が低下するオーラルフレイルが出現し、高年齢者の寿命だけではなく、生活の質や健康寿命にも関与してきます。そのため、高齢期におけるオーラルフレイルの予防だけではなく、小児からの口腔機能の発達をサポートし、口腔機能を高めておくことが、その人を豊かな将来へと導くことが可能となります。そこで、小児期から始める、豊かな人生へと導くためのヒントについてお話ししたいと思います。

《齋藤 幹 先生御略歴》

平成16年	4月	長崎大学医学部歯学部附属病院 小児歯科 助教
平成21年	9月	フィンランド・ヘルシンキ大学客員研究員(バイオテクノロジー研究所)
平成23年	9月	長崎大学病院助教 小児歯科 助教
平成25年	2月	東北大学病院助教 小児歯科 助教
平成27年	4月	東北大学病院講師 小児歯科 講師
平成28年	4月	新英学園 仙台歯科技工士専門学校 非常勤講師
平成30年	4月	菅原学園 専門学校仙台総合医療学校 非常勤講師
令和5年	4月	宮城学院女子大学 健康教育専攻 非常勤講師
令和6年	4月	東北大学大学院歯学研究科小児発達歯科学分野 教授